

南青協便り 第211号



南米産業開発青年隊協会会報 Boletim n.210:Seinentai do Brasil

2021 年 10 月 11 日発行

Edição: 11 de outubro de 2021



Foto em
05-SET-2021

1 次池辺治男宅のベランダで藤の花が見事に咲いていました(6 頁も)
Flores glicínia estavam em plena floração na varanda da casa do Sr. Ikebe



Foto em
19-SET-2021

南米産業開発青年隊慰霊碑建設 10 周年記念慰霊祭、円光寺
Efetuado a Cerimônia de sufrágio pelos mortos no Templo Enko-ji

目次(第 211 号) ÍNDICE (n. 211)

一、Fotos da Capa 表紙写真 :

Acima: Flores da glicínia estavam em plena floração na varanda da casa do
Sr. Haruo Ikebe (1ª turma), foto por Takatoshi Osada

Abaixo: Efetuado a Cerimônia de sufrágio pelos mortos no Templo Enko-ji ... 1

上 : 1 次池辺治男宅のベランダで藤の花が見事に咲いていました。長田撮影

下 : 南米産業開発青年隊慰霊碑建立 10 周年慰霊祭。 Marcelo S. 曾我撮影 . 1

一、Índice 目次 2

一、【写真】慰霊祭の集合写真です。ニッケイ新聞記者の淀さんの写真に
8 期小山徳さんが名前を入れてくれました。 3

一、【写真】慰霊碑と参列者の写真です。 4~5

一、【写真】花の写真 :

池辺治男宅ベランダで見事に咲いた藤の花のもう 1 枚の写真。長田撮影

Mais uma foto de Flores glicínia em plena floração na varanda do Sr. Ikebe

ユダヤ女性の小靴 Sapatinho de Judia が咲きそろいました。長田譽歳 ... 6

一、慰霊碑建立 10 年記念の慰霊祭 サンパウロ 会長 渡辺進 .. 7~8

一、慰霊祭 サンパウロ 8 期 長田譽歳 ... 9

一、【写真】Algodão de Paineira パイネイラの綿

Acima: Após 100 dias, os Frutos da Árvore Paineira Transformaram-se em Algodão

Abaixo: Têm frutos entre algodões e os galhos mais velhos formaram espinhos .. 10

上 : パイネイラ(トックリキワタ)の実が 100 日間で綿になりました

下 : 左の綿と綿の間と右の写真に皮がむける前の実が見え、古枝には刺が .. 10

一、バイデンの大失態 サンパウロ 9 期 貝田定夫 ... 11~14

一、高市早苗には次がある サンパウロ 9 期 貝田定夫 ... 15~16

一、南米産業開発青年隊協会の皆様、ご家族様

産業開発青年隊同窓会長 鈴木浩明 .. 17~18

一、【月例会報告】8 月。 会長 渡辺進 ... 19

一、【会計報告】7 月分、8 月分、支店番号、口座番号、SALDO 20~21

一、過酷な時代 サンパウロ 8 期 長田譽歳 ... 22~26

一、幼稚な詐欺 サンパウロ 8 期 長田譽歳 ... 27~28

一、自分史 (30) ポルトガル 10 期 岡井よししげ ... 29~32

一、高市早苗は日本の総理大臣になる ソロカバ 8 期 早川量通 ... 33~34

一、佐竹宗之氏と三戸伸晃氏から便り サンパウロ 6 期 盆子原国彦 ... 35~37

一、立花隆氏とイエズス会ミSSIONの遺跡紀行

フォス・ド・イグアス 単独 齋藤信夫 ... 38~49

一、【編集委員】【名簿訂正】【お願い、お知らせ】【編集後記】 ... 50

慰霊祭の
集合写真
です。

8期小山
さんが、
ニッケイ
新聞の淀
記者さん
の写真に
名前を入
れてくれ
ました。



慰霊碑と参列者





池辺治男宅ベランダで見事に咲いた藤の花のもう 1 枚の写真(長田撮影)
Mais uma foto de Flores glicínia em plena floração na varanda do Sr. Ikebe



ユダヤ女性の小靴 Sapatinho de Judia が咲きそろいました (8期長田譽歳)



慰霊碑建立 10 年記念の慰霊祭

会長 渡辺進

皆様お元気でお過ごしと思います。

慰霊祭が 2021 年 9 月 19 日に予定どおりイタペセリッカ市の円光寺でおこなわれました。

現在はこの金閣寺と円光寺と我々の慰霊碑はイタペセリッカ市管理下であり常にきれいに清掃管理されています。青年隊にとって大変ありがたい事です。

昨年は残念ながらコロナ禍の為、仲間が集まっての慰霊祭をおこなうことができませんでした。草取りと慰霊碑洗浄は執行部と有志でおこないました。

6 期の有田さんが中心となり慰霊碑を建設〈建立と言うらしいですが〉して丁度 10 年と言う節目の年でもあります。

その時、有田さんが慰霊碑建設の必要性を熱く会報に語っていますので、大変感慨深く読みなおしました。

55 周年の時までに亡くなられた仲間は 82 名でした。

それから 10 年、2021 年の 65 周年に当たる今年の 8 月 24 日までに合計 131 名の仲間が亡くなっています。

御家族や仲間を失った悲しみは当然ではありますが、それに負けずに我々の元気な姿を、亡くなった皆さんに見てもらい、あちらで安心してもらう事も大事な事ではないかと思えます。

長澤所長と吉留先生の写真も慰霊碑といっしょに並べて仲間といっしょに供養しました。懐かしく語りあっていることと思えます。

天気も良く、奥様方自慢の手料理でとっても楽しく、美味しく、飲んで食べての慰霊祭でした。

多くの会員とその御家族の皆さんに参加していただきました。

皆様大変御苦労さまでした。なおニッケイ新聞からも取材に記者の方が来てくれました。

簡単ですが、まずは報告まで。次ページは当日の写真です。



慰霊碑前での記念写真、ここに写っていない御家族・子供さんが居られます。



マルコス僧侶と焼香者の一部



円光寺内での焼香の様子



9月19日日曜日にイタペセリッカ市の円光寺で慰霊碑建立10周年の慰霊祭が催されました。天候も快晴で穏やかな日和で楽しい和気あいあいの催しでした。只10時30分開催予定の慰霊祭が始まったのが11時45分過ぎになってしまいました。

マルコス僧侶側にテレビ局の記者会見が入り遅れに遅れたのです。この円光寺は曹洞禅宗開教師大畑天昇主任の運営時は良かったのですが、ブラジル人のマルコス僧侶が引き受けてからは檀家個数も極端に減り、彼自身ミナスジェライズ州ウベラーバ市の大学の教師でしたので何かと不都合でした。

其処でイタペセリッカ市役所とマルコス僧侶の話し合いで寺院と敷地は市役所の管轄下に入り寺院の使用運営は市役所の一人の責任者とマルコス僧侶の共同運営に成りました。詳細の取り決めはまだ検討の余地がありますが、道筋は大方決まったようです。

ですから我々の南米産業開発青年隊慰霊碑も無事にあの場所で安泰です。慰霊碑の後ろの急斜面の山も奇麗に刈り取られ、高さ7~8メートルの斜面に二体の白色の小さな童子の像が立っています。それが案外慰霊碑とマッチしています。南米産業開発青年隊慰霊碑は我々の目の黒い内はまず安泰です。

今年の慰霊祭への出席者は磯中晴子さんの家族に大島ルイザさん、長田の家族に曾我さん家族、夫婦では斉藤さん、猪口さん、馬場さん、鈴木さん、渡辺さん夫妻でした。単独では5期菊地さん、7期菊池夫人、8期小山さん、北田さん、早川さん、9期津田さんに日系新聞社の淀記者が参加され総勢では多分過去最多数の50名程の参列で、過去10回の慰霊祭では一番の盛況だった様です。

ご婦人方の最大の協力で有り余る沢山の料理をご馳走になり、このコロナパンデミーアの鬱憤が少し晴れたようです。有難うございました。



Após 100 dias, os Frutos da Árvore Paineira Transformaram-se em Algodão パイネイラ(トックリキワタ)の実が 100 日間で綿になりました



Foto em
01-SET-2021



Foto em
01-SET-2021



Foto em
05-SET-2021

Ainda têm frutos entre algodões, os galhos mais velhos formaram espinhos
まだ綿の間と右の写真に皮がむける前の実が見え、古枝には刺が出来ています



Foto em
13-SET-2021



木にある綿から風で地上に飛ばされた綿の小片で夫々に黒色の種があります ◆

8月15日、イスラム原理主義組織タリバンがアフガニスタンの首都カブールを制圧した。この想定外の事態にカブールは大混乱となり、カブールの国際空港には脱出しようとした夥しい数の市民が押し寄せ、滑走路を移動し始めたアメリカ軍の輸送機にしがみついた姿が見られた。そのうち離陸した輸送機にしがみついている男性が数秒後には上空から落下するのが見られた。「タリバンに殺される」の恐怖心から必死に脱出しようとしたのだろうが、あまりにも悲惨な光景に言葉がない。また、カブールのアメリカ大使館では、屋上からヘリコプターで退去する大使館職員の姿が見られた。混乱はカブールに限らず国全体に広がっていたと想像される。

アメリカは世界一強力な軍事力を持つ大国である。アフガニスタンの要所に軍隊を配備し、厳重な監視の下に「混乱なく粛々と撤退する」ことが出来た筈である。我々でも分かる常識的なことを、大統領のバイデンは何故しなかったのか。

アメリカ軍が撤退を始めると、タリバンはあっという間にカブールを制圧した。バイデンは「こんなに早く崩壊するとは思わなかった」と言い、戦わずして逃げたアフガニスタン政府軍のせいにし、想定外のことだったとして責任逃れをした。しかしながら、アメリカはタリバンに関して十分な情報があった筈である。なんとなれば、アメリカにはCIAという諜報機関があり、国防省・国務省があり、現地には大使館がありアメリカ軍が駐留していた。バイデンの判断の誤りが大混乱を招いたことは隠しようがない。

バイデンのとぼけたような言い訳を聞いたトランプ前大統領はここぞとばかりにバイデンを批判した。「バイデンは今、アメリカ史上最大の外交的屈辱を見ている。バイデンはぶざまなアフガニスタン撤退により驚くほどの無能ぶりを見せつけた。これは撤退ではない、完全な降伏だ」。さらに「彼がすべきだったことは、アメリカ国民や兵器など全てがアフガニスタンから退去するまでアメリカ軍を駐留させ、そして基地を(タリバンに使わせないように)徹底的に

爆破することだ。軍を最初に動かしてはならない、軍は最後に動かすのだ」と締めくくっている。全く同感である。

ワシントンポスト紙は元米軍幹部の見解として「アメリカ軍はカブールの治安維持は出来たはずだ。グリーンゾーン(各国大使館のある地域)を安全地帯としてカブール空港へのルートを守ることが出来た。これをしておけば IS によるテロ攻撃も防ぐことが出来、13 人のアメリカ人犠牲者を出すこともなかった。バイデン政権の怠慢と無能さにただただ驚かされる。バイデンは国辱である」と批判している。

ここで思い出すのは、ワシントンポストと言えば、前の大統領選でトランプを徹底的にこき下ろし、バイデンを持ち上げていた新聞である。これが今回は手の平を返すようにバイデンをこき下ろしている。

アメリカ軍のアフガニスタン撤退完了後バイデンは「アフガニスタン撤退は大成功だった。過去には色々あったが、今は過去ではなく未来を見るべきだ。私の判断は正しく賢明なものだった。アメリカ人にとってベストな判断だった」と述べた。カブールの大混乱にもかかわらず、バイデンは大成功だったと開き直ったのである。

バイデンは 2020 年の大統領選の時から、言い間違いや物忘れが多くボケが疑われ、大統領の職務が遂行できるのか危惧されていた。バイデンの開き直りを見て彼の精神状態が疑われる。ここにきて共和党のみならず、身内の民主党からも厳しい批判が出だした。バイデンへの支持は急降下し、大統領辞任や罷免もささやかれ始めた。共和党にとっては 2022 年の中間選挙に追い風となり、2024 年の大統領選にも影響しそうである。

カブール陥落から 20 日ほど過ぎた 9 月の始め、ワシントンポスト紙はバイデン政権が隠していたアフガニスタン撤退の真相を暴露した。バイデンが言う「タリバンのカブール制圧は予想外のことで、コントロール不可能なことだった」ということは全部ウソだと報道した。ワシントンポストによると「タリバンはカブールを制圧する気はなかった。アフガニスタンのガニ大統領が突然国

外に逃亡したので政府軍が崩壊し、これで困ったタリバンがアメリカ軍と緊急会議を行いカブールの治安維持をアメリカ軍に依頼した。しかし、バイデンは撤退にこだわりそれを拒否した。これでタリバンはカブールに入るしかなかった」というのが真相であると述べている。

別のワシントンエグザミナー紙によると、「実は、タリバンは欧米勢がアフガニスタンから出るのを欲しなかった。特に欧米の大使館や NGO には残って欲しかった。何故ならタリバン自身、自分達だけではアフガニスタンの再建は不可能ということを知っており、政権を取った後に欧米諸国に国家承認をして欲しかったのである」とタリバンの思惑について説明している。

実際にはタリバンがカブールに入る前まで水面下で色々の動きがあったことが想像される。タリバンの狙いは表向きガニ政権を継続させ、実権はタリバンが握るということだったのではないか。しかし、これを嫌った大統領のガニは金を持って国外逃亡したのでタリバンの思惑が外れ、カブールに入らざるを得なかった。タリバンとしては将来のためにも混乱は避けたかったのが本音だったように思える。

2001 年 9 月のアメリカ同時多発テロ事件から、アメリカがアフガニスタンに介入して 20 年になる。この間アメリカ兵は 2500 人が死亡、イギリス、ドイツ、カナダなどの NATO 加盟国の犠牲者を含めると 3600 人になる。アフガニスタン側は政府軍と民間人を含めて 10 万人余り、タリバンなど反米側の被害は約 5 万人と見られている。アメリカが使った戦費は 3 兆ドル、アフガニスタンの治安部門に費やした資金は 8800 億ドルとされている。しかし、これらの膨大な人命と資金がタリバン復活で水泡に帰した。そして 20 年前のタリバン支配に戻ろうとしている。いったい何が間違いだったのだろうか。

アフガニスタンはイスラム主義の多民族国家で人口 3900 万人。海のない内陸国で大部分が山岳地帯、僅かに平野部があり、農業と牧畜が主な産業である。経済的には国家予算の 70% は国際支援に依存する貧困国、欧米諸国や日本もこれまで援助してきた。国民の 2/3 は 1 日 2 ドル以下で生活しており、大半の国民に食料、衣料、住居、医療を提供できていない。成人で読み書き出来る

のは僅か 30%で世界の最低の国々に属する。そして一般市民の誘拐や殺害(日本の中村哲医師も犠牲になった)が絶えず、汚職が蔓延している。

このような国にアメリカ流の民主主義を受け入れる社会的な基盤はない。

「アラブの春」がいい例である。中東・北アフリカのイスラム諸国で一時民主化の動きが盛り上がり多くの独裁者が倒された。しかし、かえって混乱を招き民主化された国は一国もなく、大部分の国は「アラブの春」以前より悪くなっている。

アメリカはタリバンと戦いながらアフガニスタンの民主化を目指したが、20年間の戦争のあと敗れて撤退した。人間の愚かさと言えばそれまでであるが、歴史の中でこれに類したことが幾度となく繰り返されて来ている。



9月29日、自民党総裁選が行われ岸田氏が勝利した。しかし、敗れたとはいえ高市氏には次がある、との強い思いからこの原稿を書いている。自民党は安定を望み穏健な候補を総裁に選んだ。別の言葉で言えば無難な岸田氏を選択した。高市氏は第一回目の投票で3位となり決選投票には進めなかったが善戦した。最初は泡沫候補と言われながら追い上げ、女性でありながら予想外に健闘した。ネット上では高市氏の人気がダントツの一位だったというから、国民投票であったならば勝利の可能性があった。

9月の始め、高市氏の自民党総裁選出馬会見をビデオで見た。しっかりした国家観と歴史観があり、日本の国はいかにあるべきかを具体的な政策を基に説明した。記者団との質疑応答でも丁寧な対応をしていた。政策の中味は、まさに今日本が直面している諸問題に真っ向から取り組む姿勢を示している。他の候補のあいまいな政策とは格段の違いがあった。

また、高市氏に注目したのにはもう一つの理由がある。それは私がこれまで主張(青年隊の会報を参照)して来たことが、高市氏が首相になれば実現されそうだからである。

私のこれまでの主張は「日本の国は日本人自身で守れ、安全保障はアメリカと対等の立場で決めよ、中国・北朝鮮の脅威に断固として対応せよ、自衛隊の存在を明確にせよ(自衛隊は憲法に記載されてない)、日本の首相は靖国神社に参拝すべし」などである。

日本は安全保障をアメリカに頼りきりアメリカの言いなりになっている。しかし、いざという時、アメリカが本当に助けてくれる保障はない。戦後76年を経て世界の情勢は大きく変わり、アメリカもかつてのように世界に睨みをきかせる時代ではなくなった。「日本は日本人自身で守る」ことは先送り出来ない状況にある。高市氏は防衛予算を現在の国内総生産の1%から2%に倍増し、日本の防衛を強化することを提案した。「必要なところに金をかけないと日本を守れない」と語り、アメリカの意向とは関係なく、自分の考えを率直かつ力強く表明しているところに期待した。

中国は尖閣諸島付近の領空・領海侵犯を毎日のようにやっている。北朝鮮はミサイルの発射実験を再開した。日本政府は「甚だ遺憾である、嚴重に抗議した」と言うが、全然効き目がなく無視されている。日本政府の基本的な考えは専守防衛で防御に徹しているので、中国や北朝鮮にとっては痛くもかゆくもない。高市氏は敵基地攻撃能力を持つことを主張した。これは危ないとなれば先制攻撃も辞さないということで抑止力として働く。中国と北朝鮮は核保有国なので、これで十分とは言えないが一步前進とは言えるだろう。

トランプが大統領だった時、中国と北朝鮮はトランプを恐れていた。トランプはイラン革命防衛隊の司令官、ソレイマニをピンポイント攻撃で殺害した。北朝鮮の金正恩は身震いしたことだろうし、アメリカに逆らうことはせずミサイルの実験もしなかった。やはり相手を恐れさせることが一番の抑止力となる。

日本の憲法は今日に至るまで一度も改正されず多くの矛盾を抱えている。その最たるものが第9条2項で「戦力不保持と交戦権否認」が記載されている。即ち、「戦力を持つな、戦をしてはならない」ということである。しかし、現実の自衛隊は世界第5位の軍事力を持っている。高市氏は憲法を改正し「国防軍」と明記することを主張した。

日本の首相で靖国神社を参拝したのはごく僅かで、大多数は中国の反発を恐れて参拝していない。高市氏は首相になっても参拝を続けると明言した。女性ながら強い首相になれるような気がする。外交問題にならないかの記者の質問に「靖国参拝は本来外交問題ではないので、外交問題にならないよう努力する」と述べた。

高市氏は政治家であると同時に著述家でもあり、1990年以降、政治経済に関して8冊の本を書いている。そして、今回の総裁選に合わせて「美しく、強く、成長する国へ。一私の日本経済強靱化計画一」を発行した。この本には全ての政策が書かれていて、総裁選のために周到な準備をしていたと見られる。ちなみに、高市氏の本は書店でよく売れているとのことである。次の総裁選には勝ってもらいたい。◆

南米産業開発青年隊協会の皆様、ご家族様

産業開発青年隊同窓会長 鈴木 浩明

南米産業開発青年隊協会 65 年のお祝いの言葉

1956 年 4 月に神戸港より 17 名の産業開発青年隊員がオランダ船「ルイス号」に乗船し、同年 6 月 9 日サントス港に到着、直ちにコブリンコ会社所有の農場に向かわれました。

そして、同社がパラナ州西北部のセーラ・ドス・ドラードスに所有する土地測量および道路、橋梁の建設工事に従事されたのが神代 1 次隊の皆様で、南米産業開発青年隊のブラジル移住 65 年の第一歩の始まりとなりました。

なお、神代組は 2 次隊まであり神代組の皆様方は産業開発青年隊としての移住枠手続きが未完だったので、コチア青年の移住枠（受入れ機関はコチア産業組合）でブラジルに渡られました。

私の祖母の姉夫婦も、第 2 次世界大戦後、満州より引き上げ、朝霧高原で一時期暮らし、ブラジルに移住いたしました。そしてわたくしも、1984 年ロサンゼルスオリンピックの時、第七次ブラジル派遣隊として、3 か月間ブラジルに滞在させていただき、渡辺会長、松永先輩に受け入れをしていただきました。そして、多くの先輩方のお世話になり、充実した 3 か月間の派遣実践をすごさせていただきました。その時にはちょうど、吉留先生が建設省を退職され、ブラジルに渡られた時であり、わたくしも少々の時間ではありましたが、同伴をさせていただきました。その吉留先生も残念ではありますが、平成 30 年 9 月 8 日にお亡くなりになりました。

また、南米産業開発青年隊協会 60 周年大会の時には栗田会長一行とともに大会に出席させていただき、32 年ぶりのブラジルで皆様と楽しいお時間をともにすごさせていただきました。

なお、昭和 38 年に朝霧に中央訓練所が建設されるとき、わたくしの祖父や父が水道配管工事のため中央訓練所にて作業の陣頭指揮をしました。

このようなご縁があり、栗田会長の後、第 4 代の産業開発青年隊同窓会長を拝命いたしました。

南米産業開発青年隊協会の会員の皆様が、異国の地で様々な困難に立ち向かい、わたくし共が考えることができないような苦難を乗り越え、本年で 65 年を迎えられたことに対しまして、誠に僭越ではありますが敬意を表させていただきます。

本来でしたならば、多くの会員の皆様方や、ご家族の皆様方がお集まりになり、楽しいお時間を過ごすはずでしたが、コロナ禍の影響で本年開催の予定でした南米産業開発青年隊協会 65 周年記念大会が中止になりましたことは、誠に残念であります。

しかし、南米産業開発青年隊協会 渡辺 進会長より来年以降に延期して、65 周年記念大会を開催するとご連絡をいただきました。皆様方が、この5年ごとの記念大会をいかに大切にしているかを知ることができました。

さらに9月19日（日）午前10時より円光寺にて慰霊祭を開催されるとも連絡をいただきました。多くの物故者の御霊に対して、敬意の念を抱き、哀悼の意をお伝えさせていただきます。本来であれば、皆様のお顔を拝見しながらご挨拶をさせていただきたいのですが、誠に残念であります。

日本の国策事業である、産業開発青年隊移住事業において、日本国の代表として、ご活躍されている南米産業開発青年隊協会の皆様、そしてご家族の方々、また志半ばで亡くなられた方々の、産業開発青年隊員としての姿勢や、その信念に対して敬意を表します。

日本での大会についてのことを少々お話しさせていただきます。令和5年（西暦2024年）に産業開発青年隊創設70周年記念大会を実施する予定です。また、本年には産業開発青年隊同窓会のホームページも立ち上げることができました。産業開発青年隊同窓会とクリックしていただければご覧になれますので、ぜひご覧くださいますようお願い申し上げます。

また寄稿もできますので、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

南米産業開発青年隊協会の皆様、そしてご家族の皆様、これからもどうぞお体をご自愛していただきますよう、そしてさらなるご活躍を祈念いたします。そしてまたの再会を楽しみにしています。

2021年9月4日 産業開発青年隊同窓会長 鈴木浩明 並びに会員一同



8 月例会報告

会長 渡辺進

8 月 2 1 日（土）に山形県人会会館で月例会が開かれました。
出席者は曾我義成、長田譽歳、鈴木源治、小山徳、渡辺進でした。（敬称略）

- 1) 7 月の会計報告は承認されました。
- 2) 今年の南米産業開発青年隊慰霊祭は次のとおり行う。
日時 2021 年 9 月 19 日 午前 10 時集合 11 時慰霊祭 12 時親睦会
場所 円光寺（サンパウロ州イタペセリッカ市郊外、金閣寺に隣接）
- 3) バン利用者はメトロサウーデ駅に午前 8 時集合。
バン利用希望者は 9 月 10 日までに曾我さんへ電話（自宅 2375-4596
携帯 97120-0863）で連絡してください。
- 4) 料理は各自持ち寄り。アルコール飲料も各自負担。飲料水等は会で用意。
- 5) 新聞社への連絡と招待状、円光寺との打ち合わせ、ローソクと線香の準備
は鈴木さん、バンの件は曾我さん、飲み物とお礼のお金は長田さんがする。
長澤所長の写真、御花と過去帳の用意は渡辺がする。

御家族はもちろんですがお友達などもお誘いしてにぎやかな慰霊祭にしたい
と思います。奮ってご参加ください。

9 期樋口さんから戴いた干し柿を戴きながらの例会になりました。甘く美味
しい干し柿のお蔭で慰霊祭の仕事の手分けもスムーズに進みました。樋口先輩
ありがとうございました。



左から小山徳、長田譽歳、曾我義成、渡辺進、鈴木源治



南青協月間会計報告（7月分）

2021年7月31日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	6月よりの繰越分			25.289,93
12/Jul	香典 1次佐々木興氏	300,00		
13/Jul	寄付 Tamami Sasaki Ryoichi Uemura 夫妻		1.000,00	
21/Jul	年会費 2次三沢貞夫氏(21)		200,00	
24/Jul	慰霊碑清掃弁当 7人分	112,00		
24/Jul	香典 10期亀井勇蔵氏	300,00		
24/Jul	亀井氏法要交通費	100,00		
24/Jul	円光寺、公園管理者御礼	100,00		
31/Jul	年会費 9期板垣勇蔵氏 (260)		200,00	
31/Jul	寄付 9期板垣勇蔵氏(260)		800,00	
31/Jul	会報 210号 Cópia	1887,00		
31/Jul	会報 210号 Correio	719,80		
	Rendimento		101,34	
		3.518,80	2.301,34	24.072,47

南青協月間会計報告（8月分）

2021年8月31日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	7月よりの繰越分			24.072,47
11/Ago	年会費 9期樋口洋司氏(266)		200,00	
11/Ago	寄付 9期樋口洋司氏(266)		200,00	
13/Ago	年会費 9期丸谷良守氏(231)		200,00	
19/Ago	山形県人会月例会 Aluguel	120,00		
20/Ago	年会費 7期鈴木貞男氏(188)		200,00	
22/Ago	慰霊祭送迎用コンビニ頭金	350,00		
24/Ago	年会費 8期早川量通氏(214)		200,00	
25/Ago	年会費 4期馬渡一利氏(81)		200,00	
	Rendimento		109,44	
	Total	470,00	1.309,44	24.911,91

Bradesco の支店番号と口座番号 04 Set /2021 Extrato Conta Corrente Takatoshi Osada Susumu Watanabe	Agência 1480 Conta 33226-7 Takatoshi Osada Susumu Watanabe CPF 698.506.588-00 Cheque の送り先 Takatoshi Osada Rua Rishin Matsuda,467 São Paulo, SP CEP 04371-000
--	---

9月23日岡井吉重様より南青協の口座に R\$4.250,00 の入金がありました。
 ありがとうございました。他の報告と御礼は次ページに記載します。

去る 7 月 5 日に 1 次の佐々木興氏が亡くなりましたが、7 月 12 日に佐々木さんの娘さんのタマミ佐々木さんとリョウイチ植村さん夫妻より 1.000,00 レアイスの寄付を受け取りました。有難う御座いました。

Dia 12 de julho recebemos mil reais de doação pela Sra. Tamami Sasaki(filha do falecido Sr.Okoshi Sasaki) e pelo seu marido Sr. Jean Ryouichi Uemura. Muito obrigado! Okoshi Sasaki-san e sua esposa estão juntos no cemitério de Congonhas. Nossos sentimentos e que descansem em paz.

7 月 31 日 9 期の板垣勇蔵氏の会費 200,00 レアイスと 800,00 レアイスの寄付を受け取りました。有難う御座いました。

Acusamos o recebimento de seu pagamento de R\$ 1.000,00 (R\$ 800,00 – doação /R\$ 200,00 - anuidade) do Sr. Fabio Hideki Asahi e Sra. Canae Asahi.

Nosso agradecimento!

8 月 11 日には 9 期の樋口洋司がリオデジャネイロ州の Nova Friburgo 市より来聖され 200,00 レアイスの会費と 200,00 レアイスの寄付と沢山の干し柿を戴きました。

この干し柿は 8 月 21 日の山形県人会会館での定例月例会に出席された曾我氏、鈴木氏、小山氏、渡辺氏と私(長田)で茶菓子として戴きました。

今年の樋口氏の干し柿の出来具合は申し分の無い商品でした。サンパウロの多くの日本食品店へも出荷されています。

月例会の会談中に何個か食べ、残りは皆さんで持ち帰りました。昔少年時代に食べた柿の思い出が懐かしく思い出されました。有難う御座いました。

今月は他に四期の馬渡氏、七期の鈴木貞男氏、八期の早川氏と丸谷氏の会費の入金を戴きました。有難う御座いました。9 月の 5 日に池辺治男氏宅に伺って藤の写真を撮った時に本年度分として 200,00 レアイスを受け取りました。

これは 9 月分の会計報告に入ります。有難う御座いました。9 月 5 日現在の今年度の会費納入者は 35 名と 2.500,00 レアイスの寄付がありました。

有難う御座いました。



私が生きて来た人生の中で最も過酷な時代は昭和 24 年 25 年 26 年（1949-1951 年）の頃だったと考えます。私が小学 4 年 5 年 6 年生だった 3 年間に私の住んでいた住宅 50 軒ほどの小さな部落で青年男女 3 人が自殺しました。

その第一話は私の同級生で友人の小林勝君の 22 歳の姉さんでした。

小林勝君は運動神経が機敏で 100 メートル競走では小学 6 年生の時、郡西部地区大会にて新記録で優勝しました。

終戦から 4 年が経過して日本社会も民主化が進み安定した兆しが見えました頃、村の青年団では盛大な演芸大会が開催されるようになりました。

その勝君の姉のすみ子さんの舞踊は抜群の華やかさで優勝されました。少し派手好みで活発な点が有り近所に住む青年と恋仲になり、隣近所に住んでいるので何時も会って恋を囁き会っている内に妊娠してしまいました。

その相手の青年の父親が戦死して母親が 4 人の子供を連れて実家に戻り弟の長男と暮らすようになりました。その長男も戦争に行き無事帰り家督は弟の長男が継ぐ事になり、結婚して小さな子供も有りました。ですからすみ子さんの相手の誠一さんは独立して生計を立てねばなりません。その頃の田舎ではその様な次三男が沢山いて、どの家でも頭を痛めていました。

都会に出て働くにも何の知識も技術も知恵も無い。今まで受けた学校の教育は戦争に行き、如何に多くの敵を倒して勝利に導くか、そんな勉強しかしていず軍需工場で働いていた者なら働き口も有るだろうけど、どうにもならない。2 人で会って話しても何の糸口も見出せない。いたずらに日々が過ぎて行き、腹が大きくなって妊娠が発覚する。

それを知った父親は怒り狂って自分の娘を殴り叩きました。その父親は大酒飲みで喧嘩早く誰にも直ぐ手を出す親父でした。そしてそんなふしだらな馬鹿者は死んでしまえと言う。その父親に良く似た娘はそれから数日して消毒用の

ホルマリンを大量飲んで死んでしまいました。ホルマリンは喉が焼けきれる様な痛みが有り苦し紛れに井戸に飛び込んだのでした。それから3年程して父親も胃の病で亡くなってしまいました。

彼女の母親は大変気性の優しい女性で私が遊びに行くと優しく話してくれました。この母親も私が高校生になった時、病気になり兄が見舞いに行って様子を見た感じでは良くないようだから、見舞いに行ったら良いと言われ私も病院に行くと大変喜んでいました。そして数日後に亡くなりました。その友人も酒が大好きだったからもう天国に行っているかも知れません。

第二話は小林勝君の姉の隣の青年・橘田清隆さんの話です。

昭和25年の夏の夕暮れ時に長男が荷車を引き父親が汗を流して後から押して私の家の前を通過して行く、私の兄は遅くまで頑張るねと挨拶をするが何の応対も無く無言で通過してゆく。その後で何か妙な匂いがする。

その荷車に積んであったのは次男の遺体だったのです。その二日前の新聞に武田神社の裏山の山林の中に氏名不明の首吊り自殺の死体発見の記事が載っていました。

遺書らしきものにはただ一言『幸は掴めなかった』と達筆な筆跡で書かれていたと記されていました。遺体を受け取った時には死後四日後ですから、その時は相当腐敗が進んでいていやな臭いが漂っていましたが遺体受け取りが遅れていて、腐敗が相当進んでいたのも、普通の人なら15キロメートル遠方から運ぶのを考えたら焼却すべきでした。その武田神社の直ぐ近くに火葬の焼き場があったんですが、その父親は部落一のけちん坊でしたので腐乱死体を持ち帰ったので、葬儀の参列者は皆ハンカチを鼻に抑えて歩いていきました。私の家から道路までは20メートル程ありましたが、それでも強い臭いがしました。

この橘田清隆さんは身体も大きく部落対抗野球大会ではホームランを打ったのを記憶しています。ただ土方稼業をするような人ではなかったようです。

商売で身を立てようと雑誌の訪問販売をした時がありましたが、それでは飯が食べられる時代では無かったようです。

それでも25歳で幸が掴めなかったと言うには少し早いのではないかと思います。幸は寝て待てと言う位のんびり出来なかったのだろうか。そしたら時代も変わったのだろけど。

その清隆さんの姉は戦前に病院の看護婦さんでした。戦中に満州の病院に看護婦として召集されました。その時母親は呑気に近所の人に、2年の約束ですから2年したら大豆を2俵持って帰って来ると言っていたそうです。その姉さんが満州から帰ってきたような気がします。はっきりした記憶はありません。

第三話、悲しい最後

昭和26年鹿児島県から姉を頼って出てきた23歳の日本語の標準語も滑らかに話せない薩摩娘、国元で女性の髪形やパーマメントをする美容の経験を持っていたので、姉の住む私達の部落で店を開けられる可能性があるか視察に来られる。姉は12年程前に東京で働いていた時、私の部落出身の志田富士義氏と結婚し3人の子供の母親として落ち着いた生活をしている。

その富士義さんの嫁さんは背が高くスマートで上品な女性です。多分二代前は薩摩藩の士族だっただろうと考えます。その富士義さんがその妹を見て凄く気に入ってしまう。彼は日本人としたら背が高く頑丈で何よりもはったり屋で42歳で町役場の町長も一目置く収入役(会計理事)です。彼には25歳になる独身の弟がいました。彼には酒を売ったり日用品を売る店を出してやりました。養蚕景気に沸き田舎でも少し生活が良くなり、店の売り上げもまあまあでこれなら来年は嫁をとらせようと考えていました。

その弟の住宅兼店の上側には一時期布団のホカシ綿をする小さな建屋があり、今は空き家になっているので少し改造して美容院として女房の妹に提供してやり営業を開始しました。

富士義さんにはもう一人の兄志田高義さんがいました。富士義さんが私の父に言うには高義兄は体格も立派で、頭もよく努力家で辛抱強く立派な兄貴だと言っていたそうです。この人は警察官に成り努力と運にも恵まれ最後は山梨県警の警察官のトップの警視になりました。この人の事は私は話で聞くのみで見た記憶も無いように思います。

この人の親は天理教の教祖で戦前から戦後少しの間、お祈りの日は太鼓を叩いて村人を集めお祈りをしました。その後で子供達には団子を二つずつくれるので、貰うのが楽しみで何時も行きました。その後で井戸端の近くで遊んでいると誰かが風呂が熱いぞと大声で叫ぶ。友人の誰かが高義さんだと言う。すると富士義さんの奥さんが走ってきてすぐ井戸から水を汲み上げて、近くの風呂場に持って行く。この時に高義さんの声を聞いたのみで見た記憶はありません。

数年後に高義さんが甲府警察署長をしている時に私の一番親しい友人の姉が署長の家の女中で働いていた頃、私の友人は県警の警察官の試験を受けました。その頃は警察官試験の競争倍率は高く難しかったのです。その友人の父親は富士義さんに合格願いの依頼を頼みましたが、合格しませんでした。署長の立場では簡単に合格に出来たはずでしたが、ていたらくの弟の頼みだから一蹴したのか、その様な事はいっさいしない事にしたのか分かりませんでした。

美容院を開業した娘は一生懸命お客に丁寧に対応して働きました。美人で人当りの良い娘の働きぶりに村人は好感を持つようになりました。丁度その頃パーマメントが女性に流行っていた頃ですので好評で順調に営業される。営業開始から半年以上過ぎた秋祭りの夜、富士義さんは何時もの様に弟の店で2~3杯

飲んで良い御機嫌になり美容院に顔を出すと、最後のお客を出して店じまいだと娘は言う。

富士義さんは酒が過ぎると良心を失ってしまう。ついふらっとして女房の妹を抱きしめ、押し倒して衣服を脱がして抱きしめる。娘は抵抗しようも無くなすがままに従う。その後の富士義さんは常識では考えられ行動を繰り返し、娘をもてあそぶ。いち早く隣で酒を提供していた弟に知れ、村人の評判になる。

富士義さんは酒におぼれる性格で成す事に落ち度があり、いつか知らぬ間に娘は妊娠してしまう。これは大変だと思い何時もの通り弟の酒屋で酒を飲んだ後でお前あの娘と結婚しろと迫る。だけど彼は村中で知らぬ者は無い位に知れ渡っているその娘を引き受ける訳に行かないと断ると、兄は俺の言う事が聞けないのかと怒る。

その弟は以前酒を飲んで大きな失敗をしたのでその後一滴の酒も飲まない。そして兄に説教する。富士義さんは酒も入っていたので怒り心頭に達して店の窓ガラスを大声を出して10枚程たて続けに粉碎する。それを遠くで聞いた薩摩娘は駆けつけて来て、その様子を見た時これで終わりだと感じた。

美容院と姉の家は200メートル位の距離なので、少し忙しい時は姉の子供に食事を届けて貰い、美容院で泊まることも有りました。翌日昼過ぎになっても妹が食事に来ないので不審に思い行ってみると、美容院の店のドアは閉ざされていました。若しやと思い義弟を呼んでドアを抉じ開けて見ると、妹は身の回りをすっかり整理して布団の中で鎮まり返っていました。よく見ると呼吸もしていず、唇には口紅を塗りお化粧もしていました。

翌日の葬儀には近隣の沢山の娘等が野辺の送りに参列されました。



先日 8 月 17 日火曜日は私の水泳教室の日でした。

今年一番の寒さの寒冷前線も去り暖かい日和でした。水泳が終って暖かいシャワーを浴びた後の気持ちの爽快さは何とも言えません。これがあるから水泳が続けられるのです。

その日水泳が終って、車でアカデミーヤを出て、300 メートル程してサンタカタリーナの大通りに出て来て信号で止まっていると、角にあるガソリンポストの従業員が私の車のタイヤを指差して、空気圧が少ないと言われる。そうだなーそろそろ空気圧調整をしなければいけない頃なので、ポストに入ると指示して、入って行くと、そのポストの従業員が誘導して洗車用の昇降機に上げ、素早くタイヤに空気を入れたので、私が車から降りて、外に出ると、車の中に入れと急がす。

車に入ると車を目の高さに上げて、下に素早く下げて私を呼んで、トランス・ミッションを指差してあれを見ろと言われる。見るとミッション・オイルがだらだらと流れている。

ちょっと不思議だと思っているとまたすぐに車に乗れと急かし車を上げてがちゃがちゃ音を立てて何か廻す振りをする、そして車を下に下ろして私を車の外に呼ぶ。

その時もう一人の相棒の従業員が来て、私はメカニコだと彼は言い、そしてこの部品が壊れていると私に見せる。だからオイルが漏れたといわれる。

その見せた部品は何とエンジンのピストンリングなのです。私は今迄の彼等の様子が可笑しかったので、これは寸詐欺だと気づきましたが昇降機に登ったり下りたりのに彼らの寸詐欺に乗ってやろうと思い、真剣な顔でどうしたらよいかと尋ねると、この部品を取り替えて漏れたオイルを入れたら良いと答えすぐ終ると言い、急いで私を車の中に入れようとする。

私は笑ってその必要は無いと言うと、彼はオイル無しで走るとフンジ（焼ける）と言われる。私は「いやいいんだ」その時は保険会社(ポルトセグーロ)の牽引車が5分で此処まで来てくれるから問題ないと笑って、幾ら払うかと聞くと彼は諦めて、ナーダ(無し)と答える。

この事を車の修理屋をしている女房の弟に話すと、ガソリンポストでも主人が余り頻繁に来ない店の従業員はその様な小使い稼ぎを良くやると義弟は言い、多くはエンジンオイルだと言う。特に日本人の年寄りをカモにすると言われました。

私もあの日は水泳が終って気分が爽快だったので、歯を出して馬鹿の様に笑っていたので、これは良いカモだと見られたのだらうと思いました。年寄りには馬鹿笑いは禁物です。このコロナのパンデミーヤには気を付けなければいけないなと思いました。



旧訓練場で頑張っている伊達組の所でお世話になって仕事が一段落したので、皆なでガイーラの吉村組にお世話になる為に伊達組を後にする事になった。吉村組は薄荷で大儲けしたので隣接している MATO を購入して、そこを開墾して薄荷をもっと大体的に栽培しようとしていたのです。

ここでは朝にはコーヒーにマンジョッカのフリッタに砂糖かけて食べるのが習わした。昼はご飯にフェジョンにジャガイモの煮っころがし、夜はフェジョンにジャガイモにご飯と毎食全然変わらない。目の前でパトロンも一緒に食べているから、腹が空いていれば何でも美味しく食べられるものです。

考えてみれば「よっちゃん」の年頃（現 82 歳）は戦争中（5 歳ごろ）はとてもひもじい思いをしたものです。青森市の街は空襲される恐れがあるので大きい屋敷は強制的に解体されたものでした。「よっちゃん」の家も解体されたものです。「よっちゃん」の所では親たちは履物（下駄や草履）の商いをしていました。

戦争前は青森市にはニシンの神様と言われる位に青森市（街は海辺に沿って発達しました）はニシン漁が盛んで函館と共にニシン御殿が随分と立ったものです。

そのお陰で漁師さんの世話をする芸者さん達が大にぎわいで、親達は履物専門の商いで下駄を中心に草履などを芸者さんに売っていましたが、時々下駄を買いに来る芸者さんの中で、鼻紙が無いかと時々尋ねられるので試しに鼻紙を置いてみた。当時の鼻紙は大きさは普通の西洋紙（A4）位で、今みたいに真っ白でなく新聞紙を溶かして作った様な感じでそれが 300 枚ぐらい重ねた様なものでした。

売る為に置いたものの全然お呼出しがないので、紙の上には埃がつくので一枚、また一枚と剥がして行って五、六枚ぐらい取った時に芸者さんの目にとまって、あら、こちらで鼻紙も売っているのですね、と言って買って行ったのが始まりで買い物に来る芸者さん達は来るたびに買って行ったものでした。

所が中にはクリームが無いのとか化粧品関係の物を尋ねるので、履物と一緒に化粧品部を設置して化粧品も積極的に販売する事になったのです。人生というものは分からないものですね、それが大当たりして随分と儲けて親父はあ

の頃珍しく高価な縦型の蓄音機を買ってクラシックのレコードを掛けて楽しんでいたみたいです。

またお店兼大きな住宅を新築したりしていましたが、戦争に入り敗戦が濃くなって街の大きな家は解体せざるを得なくなってしまったのです。そして親父は戦争に駆り出されましたが幸いに外地に配属にならないで横須賀海軍基地に配属になったそうです。詳しいことは聴きずじまいでしたが、この件だけは楽しそうに話していたのを聞いたことがあります。

それは普通徴用された新兵は映画やドラマで見る様に徹底的にどやされたり、虐めたりされるが、親父は ” 私は剣道の師範である ” 事をずっと押し通していたそうです。親父の手を見ると下駄作りの職人の手でゴチゴチして毎日竹刀を振り回している様に見えたのでしょう。 剣道のケも知れない親父であった。もし彼にチョッカイでもしたら半殺しに合うのではないかと心配と不安で誰も手出しはしなく、かえって仲間を救ってやるのでとても尊敬されていたらしい。

兵隊たちの中で剣道の試合があれば必ず審判長に押されて中央の席にどかと座って、判定が難しい時には尋ねて来るので両脇の副審に ” 私が判断を下すのは簡単だが（本当は全然分からない）君の意見はどうかね？ ” と聞いて出した結果を褒めて持ち上げるのでとても尊敬されて過ごしたものだと言ったことがあった。

親父は戦争が負けるのを感じ取っていたので、戦争が終わっても五年くらいは何もしなくても食っていけるくらいの品物を穴を掘って埋めて行っただが、残念な事に青森市の70%は爆撃で破壊されたので折角埋めていった命の糧がもろくも爆弾で消滅してしまった。本当に残念な事である。

爆撃される予感があったのか親達は父母の故郷の山形の楯岡にいる母方の弟が庄屋さんをしているのでそこに厄介になる事にして、「よっちゃん」の兄弟達は全部そこに行く事になった。五人兄弟であるが一人死んでいるので四人である。

勿論戦争はいつ終わるか分からないが、少なくとも終わるまで三年は見た方が良いらしくその分の世話代を相場の3倍ぐらい渡して、決してひもじい思いをさせないように弟に頼んで行った。

しかし現実には小さい茶碗に軽く持ったご飯にメザシが一匹に薄いみそ汁と漬物だけであった。

5～6歳の子供はこれで満足するはずはない、周り近所は畑ばかりなので時々人参や大根を盗んでは丸かじりしたり、近所の同年代の子供達（5～6歳）と山に出かけては、松の木の中に住んでいる松虫をとっては炙って食べたり、せみを糊の付いた竿で捕まえては火で炙って食べたりした事を今でも鮮明に覚えている。

戦争後は青森に疎開先から無事に病気もしないで帰って来たものの、食べ物不足は続いていました。今でも覚えているが食料の配給だから取りに行きなさいと親に言われて、配給所に行ったら、あなたの家は十一人家族だからと言ってくれたのがパン11個だけであった。

パン一個で1日を過ごすのか？ まあ、そんな訳はない。お金があれば闇市で食べ物材料は結構買えたものでした。

ある時母が、これがパンに付けるバターだと言って持って来てパンにつけて食べた時の美味しさは今でも忘れない。

でも、後で分かったのだが、それはバターではなくラード（豚の油）だったのだ。でも腹が空いていれば何でも美味しい。

パンと一緒によく食べたのはすいとんであった。簡単に言えば小麦粉に水を入れて、小さい団子を作りそれを平らにして茹でて、それを味噌汁などに入れて食べたものだ。しかしおばあちゃんのすいとんは美味しかった。なぜならば小麦粉に少し片栗粉を入れて作るの少しツルツルするのがたまらなく好きであった。

また親父の話で横須賀から戦後帰って来たものの、街をウロウロしていてどうしたら家族の面倒を見れるか？ 商売するお金もないし場所もない、とある町外れの空襲から免れたあるお店屋さんの所に何気なく立っていたら、「岡井さんではないか？」とお店から呼ぶ声がしたのでそこに行ったら、お店のご主人が「やはり、岡井さんだ！ お互いに無事で何よりですね」と言ってお茶をご馳走になった。

色々お互いに苦労話をしている内に、お店のご主人が言うには品物はさいわい空襲を免れたので沢山ある。私は卸す事はするが小売ができないので岡井さんどうか私どもの品物を売ってくれないだろうか？ と言って来たが私はお金が無いので品物を持って行く訳には行かないと言ったら、いや、いや、岡井さんは戦前私どもの品物をいつも必ず現金で買ってくれていたのととても助かっていました。普通は60日払、90日払であるが岡井さんの所では本当に有難い事に直ぐ現金払いでしたのでとても感謝をしていますという事です。

ですから事情が事情ですから是非私どもの品物を持って行って、売れて現金が入ったら払いに来てくださいと、とても好意的に品物を渡してくれたそうです。親父曰く、商人は信用が第一、時間厳守、約束事は必ず守る事これに尽きると言っていました。

親父は商売上手なので品物があればその日の内に二倍、三倍で飛ぶ様に売れるのでした。戦後間もなくですから品物不足それにインフレが凄い勢いなので、それを上手に渡って行くのは並大抵の事では出来ませんが、岡井履物店は昔から信用があったので商売が上手くいってお金が入って、再び新しく大きなお店兼住まいを建築する事が出来たのです。

所がお人好しな所があってつまり人がよすぎたせいでそれが後になって、商売が自転車操業に追い込まれて、黒字倒産の憂き目にあおうとしたのです。一家夜逃げ寸前まで行ったのですから運命は分からないものですね。この顛末はもっと後で出てくるでしょう。

さて吉村組で一年近くお世話になっていましたが、ある日吉村氏曰く『「よっちゃん」はその腕に指圧という技を持っているのだからここに居てもしょうがない、町に出てその素晴らしい技を人の為、世の為に活かした方が「よっちゃん」の将来には良さそうだけどね』と言われた。言われてみればそうですが、ハイ、そうですかと簡単に言う訳にはいかないが、出るきっかけを待つ事にした。まあ、はっきり言ってこの2～3ヶ月は毎晩ジャンタしてから外に出て月を眺めながら自分の将来を色々考えている自分であった。

「よっちゃん」は何かしらとても空想家でとんでも無い事を色々空想するのが好きなんだな～。ここから出てクリチーバの町に行ったら指圧で稼いでそれからサンパウロに出て指圧で一稼ぎしてジープを買ってアマゾンのベレーンに向けて旅に出るのだ、そこに着いたら船でヨーロッパ向けに旅出てヨーロッパを横断し、中近東をめぐり中国を経由して日本に到着。そこで治療の技術をさらに向上させてから再びブラジルに行って”日本で生まれた世界の発明である指圧”を普及するのだ。とかなんとか色々でっかい事を考える癖が今現在でも多いにある。それから間もなくここから解放される機会が訪れた。

2021.08.09記

コロナビールスについて

ビールスは3ヶ月ごとに変わると言います、変わっただけで大騒ぎする必要はないと思います。兎も角、毎日玉ネギ半分とニンニク3片を何らかの手段で取るようにして免疫力を保っていれば何も心配する事はないです。



当たるも八卦

「高市早苗衆議院議員は日本初の女性総理大臣になる」

ソロカバ市 8 期 早川量通

この記事は 9 月 26 日午前 5 時に書いていますが、いよいよ自民党の総裁選挙の 9 月 29 日（水）が目前に迫ってきました。私の予見している高市早苗衆議院議員は本当に自民党総裁、日本国初の女性総理大臣になるのだろうか、私自身もワクワク、ドキドキ、本当になれるのかという思いも片隅にあります。

高市早苗衆議院議員の立候補からこの人が日本国の舵取りに最高と思い、経歴と業績を調べて、今日までの出馬表明、その後の TV 討論などを注意して見聞していると、大変聡明で発言にぶれがなく一貫しており、しかも重要事項は彼女の頭に殆ど記憶されており、よどみない受け答えが出来るのに驚いています。さすが神戸大学経営学部経営学科卒業後、1984 年に財団法人松下政経塾に第 5 期生として入塾し、当時存命だった松下幸之助塾長より直接薫陶を受けた筋金入りの日本愛国憂国の政治家であると思います。

ここで一般の読者には知られていないと思いますが、高市早苗が松下政経塾の入塾試験に第一次筆記、第二次面接、最終選考の第三次とあるそうですが、その選考試験に当時在住していた兵庫県から神奈川県の松下政経塾のある茅ヶ崎市まで皮ジャンパーとブーツで、しかもスズキかカワサキの 400cc の大型オートバイで乗り付け、松下政経塾の門衛のおじさんをびっくりさせ、一躍話題になったそうです。入塾から誕生日を考えると、22 歳から 23 歳ごろと考えられますが、その当時の 400cc という大型バイクを乗り回す女性はほとんど居なかったと思われますので、同年代の男子の間ではたいへんモテたのではないかと思うぐらい、今では想像もできないふっくらと肉付きの良い、かわい子ちゃんです。

松下幸之助も最終選考にあたり、高市早苗の写真を見て直感的にこの娘だと選考されたそうです。ですから、いざとなったら 400cc のバイクを乗り回した度胸で、一直線にまっしぐらとやり抜く腹構えがあると信じます。

さてここで、自民党総裁選の現況を記しますと、河野太郎衆議院議員が自民党党员、党友の 382 票のうち、45%から 48%を獲得、岸田文雄衆議院議員、高市早苗は各々18%。また他の情報によると、河野太郎衆議院議員が 43%、高市早苗衆議院議員が 15%、岸田文雄衆議院議員が 13%。また自民党支持層だけに限ると、高市早苗衆議院議員が 25%、岸田文雄衆議院議員が 14%と高市早苗と岸田文雄の差は開いたとの情報もあり、問題は衆参両院議員票 382 票の行方となり、第一回目の党员、党友 382 票と衆参両院議員 382 票、合計 764 票で争われ、第一位は党员、党友の人气から計算すると、河野太郎が過半数を占めないが第一位となり、第二位の高市早苗と岸田文雄のどちらかが二番目になるかが問題であり、ここで高市早苗が勝ち残れば、第一位と第二位の二人で都道府県 47 票、衆参両院議員 382 票の合計 429 票の獲得合戦となります。

真に日本国国家と国民を思い、一人ひとりの衆参両院議員がどちらの人が日本の将来を託すことができるか、祈るような気持ちで一票を投じていただきたいと心から思います。

その結果、高市早苗が日本国初の女性総理大臣となり、現在の政治家トップの G7 に参加する国でドイツ首相のメルケルが退任となるので、G7 では高市早苗は紅一点で黙っていても G7 の主催国のトップと並んで前列で写真を撮影されるので、日本国の国際的な立場も高まることと思います。日本国も日本国民も高市早苗も、今でよく言う「何か持っている」ことを信じ、国際社会で謙虚で寛容の精神を衿持し、愛する祖国日本が永遠性を持続し、発展することを心より祈念します。（敬称略）下はネットで見つけた写真です。



在日の佐竹宗之氏と三戸伸晃氏から便りを受信しました

サンパウロ 6 期 盆子原国彦

佐竹宗之氏（7 期）からの便り

返信遅れて御免なさい。盆さんはもう 81 歳ですか！

私だって 10 月には 80 歳になります。お互い歳とりましたね！

最近高校同期の仲間から勧められて読んだのですが、もし手に入るようでしたら是非お勧めします。本は森村誠一の『老いる意味』です。この中で一部肝に感じた文を紹介します。

【未来に目を向ければ、いまの自分がいちばん若いのである。まったく年齢には関係ない。】（54page） 【人間は歳を重ねても、欲望を持ち続けていれば、艶はなくなる。】（74page） 【生きがいとは（自分はたしかに生きている）という実感である。】（122page） 【一度限りの人生を全うするためには、病気になるかは運次第、治るかは医者次第など考えるのではなく、すべて（自分次第）と考えなければならない。長く生きていれば、なんらかの病気になるのは当然である。】（194page） 【老いて重要なのは、何かをやり続けるようにして、張り合いをなくさないことである。】（231page）

なお最近、文藝春秋社の特別編集「知の巨人、立花隆のすべて」の興味ある所だけですが読みました。すごい人ですね、立花隆という人は！

ところでパラリンピックでのブラジルの活躍すごいですね。昨日現在でメダル数は金の 14 個はじめ計 42 個で、全世界で 6 番目ですよ。日本は開催国なのに金は未だ 5 個です。偉そうに振る舞っていますが障害者への配慮が遅れているのがハッキリ出ていますね。

東京は完全に医療崩壊しています。ワクチンはとっくに済んでいます但し暫く気を引き締めて警戒しています。



三戸伸晃氏（6期）からの便り

最近、映画界の「重鎮」と落語界の「大物」が同じ日に急逝した。映画界での役者「千葉真一」（82歳）はワシと同年齢で、其の要因はコロナウイルス感染症で実に「呆気なく？」亡くなった由。

最早 CORONA 禍の「発症」から今年は三年目を迎えて世界中で「大恐慌」を呈しているが、我が国でも三年前に発症してから今年8月には第5波襲来で毎日、日本全国で2万人～3万人の「感染者」が増えているとか。

ウイルス感染の予防接種（2回）を済ました後期高齢者（65歳以上の男女）ワシ等老夫婦如き高齢者達は感染からはナントか逃れられるらしく、但し人それぞれ考え方に違いが有ってワシ等老夫婦の場合は率先して「予防接種」を2回受けたけれど、地元の医院の看護師いわく「可成りのご老人達は 予防接種を拒む！」と。

これは政府自民党の言い分でも決して「強制」ではなく本人の自由選択であるから…。厭な人は「嫌！」と言っても何等「問題にはナラン！」由。

しかし本人の自由選択とは謂え、コロナ感染からは「逃げる事は」出来ん！本人の自由！を尊重することは… 周りの人々から視ればナニを「言うておるのか？」(-ω-🤔) ウーン…此の連中は同じ日本人同士から観ればエラク「困った人👤」である。何となく「自由！」を履き違えている事に…気付かん人だ。まあワシ等が本人達に説明する事は「出来ん」けれど、なにをかを「云わん！」

片や人気ある落語家「笑福亭仁鶴」の逝去は可成り前から「ハテ？ 最近見当たらん！」とは思っていたけれど、まさか脊椎性悪化が急変して「あッ！」という間もなく急逝した由。関西落語界の「重鎮」だったけれど脊椎髄液症？なればアッという間もなくまさに急死する！ ワシのすぐ上の兄が62の若さで急逝しているからよく判った。

その兄貴も昭和 20 年 8 月 6 日の「原爆投下」時に ワシ等三人の兄弟は
偶々疎開先の小学校に居たから、被爆の光線・家に帰る途中での「黒い雨」を
浴びた（三人共に一緒）。

其の兄貴は 50 歳を越えた頃から、白血病が進行して回復の為日赤病院で長
期間入院治療していたけれど回復出来ず 62 歳の若さで昇天した。(-ω-☹️ウー
ン・残念・無念)

ワシも今年 82 歳の「ご老人？」になったけれど、何だか長生きして居るこ
とに早々に逝った兄弟達に何やら「申し訳ないような？」気がして(-ω-☹️ウー
ン)と頭を傾げて居る。但し先に逝った兄弟たちの代わりにワシは出来る限り
「長生きをしよう」と思う。

近所の医者与时折アレコレと世間嘲を躲している医師に問い掛けて困らせて
いるのは、「センセイ・ワシの寿命は後何年位かなあ～」と問えば一寸困った
顔で「サテ・アンタは 100 歳位までは充分に生きる筈デス！」とワシに上手
を言う。

そうか肝心要の「心臓」は／約 10 年前に人口心臓「ペースメーカー」を挿入
してワシは人造人間？になって以降、大凡 8 年～10 年毎に「電池交換」すれば
（昨年交換したばかり）、他に毎年「胃カメラ検査」「大腸検査」「検便」を
しているから急性「癌」にはなり難い。

ナントか 100 歳近くまで生きて行けるかも？と実にノー🚫天気な余生を愉し
んで居る。お互いに折角の人生くよくよせず、良い余生を愉しもうゼッ！

三戸愚弄。



立花隆氏とイエズス会ミッシェンの遺跡紀行

フォス・ド・イグアスー 10期以降 齋藤信夫

私は何時もの習慣で、毎朝7時にNHKのテレビニュースを観ています。その日の朝も、何時もと同様7時にテレビのスイッチを入れますと、最初に飛び込んできたのが訃報ニュースで、「日本の知の巨人」立花隆氏死亡、と云うものでした。彼は若き日、時の宰相田中角栄を、金権政治の悪の権化と、月刊誌文芸春秋で論陣を張り、首相退陣の先鞭をつけ、男を上げました。4月30日に死亡されたようですが、2ヶ月近く過ぎてから、NHKが何度か特集を組んで放送しておりましたね。今は昔35年ほど前になりますが、私はその立花氏と一緒に仕事をした思い出があるのです。

当地フォス・ド・イグアスーから滝のあるイグアスー川の橋を渡りますと、アルゼンチン東北部に牛の角のように突出したミッショネ州になり、そのミッショネ州を南南西に300kmぐらい行きますと、州都POSADASの街があります。

街の周囲50～60km以内の土地に、昔1607年から1767年の160年間にイエズス会士達によって建設された、グアラニー族インディオ達に対する、教化部落・伝道部落VILLA REDUCCIONが現在遺跡として保存されており、これは世界文化遺産にも指定されている建築物です。

これらの教化部落は、全部で30箇所建設され、それはパラグアイ側に8箇所、ブラジルのリオ・グランデ・ド・スーウ州(編注：通常スールと書いているが、実際の発音はスーウです)に7箇所、そしてここアルゼンチンがもっとも多く15箇所ですが、保存が悪く、見応えあるのは僅かです。

立花氏がこれらの遺跡巡りをして取材したいと、東京の映画輸入会社である「日本ヘラルド社」から旅行社を通して依頼があったので、立花氏とご一緒することになったのでした。

ここに「The Mission」と云う映画があります。イギリス映画で、舞台は18世紀の南米のこの地帯です。主演俳優がイタリア系アメリカ人のロバート・デ・ニーロ、この映画はカンヌ映画祭でグランプリをアメリカのアカデミー賞で撮影賞を受賞し、有名な賞を取るくらいですから凄くよい映画です。

脚本が「アラビアのロレンス、ドクトル・ジバゴ」等を書いたロバート・ボルトです。ただし日本人には、宗教映画で、それもこんな南米での、イエズス会とインジオ達の話では、小難しくて、映画のヒットは少々無理なのでは？と云う話が出て、それなら知名度の高い文化人に、南米のジャングルを歩いてもらい、遺跡の取材をし、いろんな話を聞き、沢山の写真撮影もして本に載せて宣伝しよう。と云うわけで、最初の知名度ある文化人と云う事で、立花氏に白羽の矢がたった、と云う事のようにでした。映画はイグアスの滝でのロケションも多数あります。

イエズス会のことも少々説明が必要でしょうか？ ローマカトリックの、余りに酷い腐敗状態を見かねて、立ち上がった宗教人がおります。先ず外部から改革しようとしたのがドイツ人のマルチンルター、カルビン達で、このローマカトリックをプロテストし、プロテスタントの一派を旗揚げしました。それに刺激を受けた、イグナーシオ・ロヨラは、内部から改革しようと、6人の仲間とイエズス会を結成した。

彼はスペインのバスク地方の貴族出身でイエズス会を、数あるカトリックの派閥の中で一番大きな派に育て上げました。ローマカトリックは腐敗により地に落ちているので、彼らは内部からの改革をしようと言うことでした。

改革をするなら、スペインの新領土となった南米には無垢なインジオ達が沢山いる。彼らとなら新しい「ユートピア」の世界を作れるのではないかとイエズス会士達は南米へと乗り込んだ。

しかし彼らがみた南米の現実は、酷すぎた。既に入り込んでいたスペイン人やポルトガル人達はインジオ達を虐待し、掠奪、金銀財宝を求め収奪するばかり

りだった。イエズス会士達は、まずは最初に、インジオ達の救済から始めなければならなかった。

立花氏一行が到着しました。

一行は立花氏とカメラマン、その助手、コンダクターとの4名でした。私の方は、ドライバーと私の二人です。ホテルへ直行して、チェックイン、休息後、夕食をしながら、自己紹介、明日からの日程等を説明して、解散。私とドライバーは帰宅。

翌日は、ゆっくりとして、9時出発でした。ホテルを出て、アルゼンチンへの出国、ブラジルのイミグレーションで出国手続き、イグアスー川に掛かっているプレジデnte・タンクレード・ネーヴェス大橋を渡って、アルゼンチンへ、そこで今度は入国手続き、無事入国したのはアルゼンチンの東北部に「牛の角のように」突出したミッショナーネ州で北側と東側をブラジル、西側はパラナ川をはさんでパラグアイに囲まれています。

国境から300km程南南西に下りますと、州都のPOSADASの街があります。アルゼンチン側のドライブは快適です、ブラジルよりもインフラ整備がよく、道路が非常によく交通量が少なく、車の窓の外に見える緑が輝き最高です。やがてPOSADAS手前60kmの所にある、サン・イグナシオ・ミニ門前町へと到着です。

そこには開かずの博物館があります。今日も閉まっており、付近に誰も居りません。私は幾度か此の博物館に来ましたが中に入れたのは今までただの一度きりです。そこには、あの高名な彫刻家 Miguel Ângelo の、何と言いましたっけ、彫刻家が大きな仕事をする時に、最初小さな模型を験彫（ためしぼ）り、後に大きな本物を彫るそうですが、Miguel Ângelo のその模型のような、験彫りの彫刻物がここにあるといひます。

昼時なので、昼食をする事にしました。小さな門前町で、高級レストランなんてものは有りません。食堂的御食事処で、簡単に食事をする事にしました。肉、パン、それに小皿が出てきました。ビールを飲む人、コーラを飲む人など誰も贅沢は言いません。でもさすがアルゼンチンで肉は美味しいですね。アルゼンチンには放牧に最も適している、真っ平らで、日本の国土面積の5倍もの面積のあるパンパス地帯があり、肉は柔らかくて美味しく安い。ステーキをくれと言いますと、もうちょっと大きなレストランなら、先ず1Kgのステーキがドーンと出てくるんですね。牛の数は、人口の2倍以上もいるそうです。

食後、先ずは遺跡見学、取材のお仕事です。最初入り口横の、小さな博物館の中を通過、遺跡の庭へと入ります。庭に入りますと、両サイドにインジオ達の住居です。全て石造りです。4人家族が入るのが適度の大きさです。

インジオ達、以前は一夫多妻の生活でした。椰子の葉を屋根にした、大きな小屋に、3〜4人の妻と数人の子供達とが、雑居していたのです。

それをイエズス会の修道士達が指導して一夫、一妻の生活にしたのです。両側にインジオ達の住居が、200軒ほどもあります。此の教化部落では、最終的には3000人程のインジオ達が生活していたと推測されます。正面に大きな広場があり、ずっと奥には部落の象徴である、石造りの大きな教会が見えます。

部落は一辺がざっと観て400mでしょうか。教会は間口が20m程で、奥行きはその倍の40mはありそうです。壁の高さは7〜8m、屋根は落ちてありません。

教会とインジオ達の住居の間には、広場があり別の建物や、日時計、カペラなどがあり、教会の横は片側には、お墓、反対側には回廊があり、沢山の部屋が並んでいます。神父や修道士達の部屋、事務所、会議室、教室、武器庫、食堂、調理室、物置などそう云ったものです。

立花さんが突然話しかけて来ました。

「齋藤さん！何かの本で読んだんだけど、ここの部落の中に水洗便所があったって言うのは本当？」と言います。「はい！今でもちゃんとありますよ！御覧になますか？」と私は中央横の、比較的大きな建物に案内しました。中はガランとして何もありません。隅の方に巾50cm程で長さが10m程の掘割があり、土が崩れないよう、石を積み上げ堀の壁にしている。「ここです」皆さん「ええっ！？」っていう感じでした。

「此の堀を跨ぎ、腰を下ろして、用を足すの？」「そうです、これを利用していた頃は、約1m毎に仕切りがあり、片側は何かで囲い、もう一方は、出入り口だから開けたままだったんでしょうね。」

堀は建物の外まで50m程を流れ、部落の外果樹園や畑、マテ茶畑、放牧場の方まで続いておりました。此の部落には最終的には、3千人程が暮らしていましたが、全員がこれを利用していたわけではなく、殆どのインジオ達は、今までの習慣通り畑の中や、森の中で用をたしていたのでしょう。

サン・イグナシオ・ミニの遺跡見学は一応これで終わりとして、次に向かいました。20Km程進みますと、道路から500m程小道を入った所の、サン・ロレトの遺跡がありました。これは遺跡と云うには、少し物足りません。森の中に教会の壁だったと思われる石積みの塀のようなものがあります。それにやはり石積みの柱でしょうか？それだけで、すぐにパスです。

そこから車を20Km程走らせると、今度は「サンタ・アナ」の遺跡です。これもどれほどの事も有りません。石積みの塀の中に、お墓が沢山あります。地元の人たちがお墓にしているのでしょうか？奥の方に上り階段があり、その先に昔祭壇でもあったか？と言った感じです。

あとは小屋が2軒あるのみです。皆さんお疲れの様子で、ちょっと期待はずれといった感じ。車に戻ってPOSADASの街へと向かいました。今夜の宿泊所のホテルへ到着です。「サン・イグナシオの遺跡、もうちょっとよく観たかつ

たな」立花氏が言いますので、「大丈夫です、又あの前を通る機会があります」。

「よく眠れましたか？」私は昨夜、夕食時にアルゼンチン産のワインを、一本飲み干しましたので快眠出来ました。「じゃ今日は、朝食後パラグアイに行きましょう」。ブラジルでも、アルゼンチンでも朝の食事は余り変わりません。コーヒーとミルクを混ぜてカフェーオレ、卵焼き、ハム、チーズ、パン、ケーキ少々と言ったところ。ホテルを出まして、国境の渡しで出国手続き、国境はパラナ川です。現在は立派な橋が出来ていますが、当事はフェリーでした。

パラグアイに上陸、今度は入国手続きです。すぐ前方に、パラグアイの国境の街、ENCARNACION があります。車は街の東の端を北へ、そして街外れから、今度は東へ、30 Km 程の行程です。

そこに TRINIDAD (スペイン語では最後の D を発音しませんから、トリニダとなります) の遺跡があります。パラグアイの教化部落は、最後に建設されたものですから、遺跡群は比較的新しいので、建築物の石に、崩れが見られず、レンガを積み上げたような感じです。

TORINIDAD 遺跡の中心部は教会、これも遺跡の中央奥にあります。教化部落は全て同じような形式です。此の教会は遺跡の中では新しいほうなのに、教会の建物の前方半分程に大分損傷が見られ、壁が半分程の高さしかありません。奥の方は6〜7メートル程の高さの壁が残っており天使達の彫像が壁にあります。楽器を持って音楽を奏でているような、沢山の像が壁に彫られており、中には踊っているような天使像もあり楽しそうです。

教会から入り口方向の、教会の横には神父や修道士達の住居、会議室、その他に使うのでしょう10部屋程が並んでいます。そこから遺跡入り口方面に行きますと、チャペル、インジオ達の住居などがあります。

此処のインジオ達の住居は、一戸建てでなく、長屋形式で横に沢山並んでいます。

アルゼンチンのサン・イグナシオ・ミニは木立の中にあり、TRINIDAD よりも古いのでちょっと暗く、重厚な感じがしますが、TRINIDAD は小高い草原の中にあり、明るい「草原の輝き」的な感じがします。次に、ENCARNACION から来た道路を横断、北方へ10 Km 程の所にある、最後に建設され一番新しい、JESUS（ヘースス）の遺跡へと行くことにしました。

此の遺跡は、建設途上にイエズス会が崩壊したために、教会の壁のみしかありません。最後の遺跡と云う事で行く事にしました。

真新しい教会の壁があるのみで、他には何も有りません。教会内の床は芝生が植えてあります。やりかけの最後の仕事を観に来た、と言った感じです。

15分程見回って、ENCARNACION へと戻り、昼食をする事しました。日本食レストランに入りました。

海から遠いところなので、海の中は殆どありません。「齋藤さん！何かお勧めありますか？」と云うので、「ちょっと待ってください」、そして店主に「Dourado ありますか？」と問いますと「有りますよ！ 刺身ですか？」と答えが返ってきました。そこで皆さんに説明です。

「今朝渡った国境のパラナ川にはドラードと云う名の魚がいます。大きいのは1m 余り、もの凄い牙をもっており、ピラニアや小魚などを食べちゃいます。其の名の通り黄金色で、横腹に黒い点々があります。此の魚の刺身はどうでしょう？」皆さん物珍しさで、ドラードの刺身を試す事にしました。「美味しいぞ！ これはいい！」等と言いながら結構上手そうにビールを飲みながら試食を楽しみました。その後は適当にナニナニ定食などメニューを見ながらそれぞれ注文して昼食を済ませました。

食後は又遺跡見学取材旅行です。「遺跡でも次はちょっと違った所へご案内しましょう？」と SANTA ROSA へと向かいました。距離は 70 Km 程です。ガイドはいい加減で、正確な距離がわかりません。「いいよ、いいよ、そんなこと！」皆さん寛容で助かります。

1 時間程で SANTA ROSA の村に到着です。物珍しげに、子供達が寄り集まってきます。此処にも昔は教化部落がありました、今は何も残っておりません。元教会の何かの建物だったものか？ 10 m X 20 m 程で高さが 3 m 余りの石壁の建物で博物館です。

中に入りますと、聖人達の木彫りの像が 20 体ほどあります。聖イグナシオとか聖ミゲールなどの聖人達が置かれています。これらの彫像は、神父や修道士達の教えで、全てインジオ達が彫ったとの事です。日本の古い仏閣にも風神とか雷神などの彫像がありますが、其れを彷彿させます。

南米の「運慶」と言った感じです。立花氏も感じ入ったのでしょうか？ 熱心に見入っていました。次にもう一箇所に寄りました。

これも部落遺跡ではありません、サン・コスメ・イ・ダミニョンといいます。此処は神学校のあった跡です。今までは建物が全部石造りでしたが、神学校、その他の建物は全て木造建築です。遺跡群の中ではちょっと変わっています。これも村落の中にあります。神学校の校舎だった建物は、屋根が崩れ落ちたと云う事で、リホームしたばかりです。校舎跡は入口横から奥に向かって長く、40 m 程でしょうか？ 新しい屋根が覆いかぶさっています。

床は石ですが、その他は全て木材です。校舎の奥、入り口から見て正面に、校舎と直角に交わって、別の木材建築があります。これは大分古いようです。樹齢 100 年の木材を使つての建築物は 100 年持つそうですね？

本当かな？ 風雨に晒された木造建築では、其れはちょっと無理ですね。この古い建物は神父や修道士達関係の建物ですね。夕刻にはホテル到着でした。

ホテルは NOVOTEL チェイン経営であちこちに同名ホテルがあります。平屋建て、白い壁、横に広いホテルです。夕食はホテル内のレストランで食べました。肉類はやはりアルゼンチンがよいですね。パラグアイでは肉をフライにして揚げるのが多いです、ミラネーサです。

それとマンジョカ(Mandioca いも)を煮るか油で上げ、肉と一緒に食べます。マンジョカはパラグアイでは主食です。

今日は移動日です。此処パラグアイから、昨日の道路を戻ってアルゼンチン側にもう一度入り、牛の角の様な形をしたミッショーネ州の南端を横断しながら、まだ観てないアルゼンチン側の遺跡が沢山ありますので2～3箇所寄って、遺跡を見てもらいその後に、ブラジルへと入国します。そう云う事で NOVOTEL を出発しました。今日も快晴快適です。

ミッショーネ州は、ミッシオン部落が沢山あるので、ミッシオンの名前をつけたのでしょうね。アルゼンチンへ入国、一昨日はブラジルから入国して南へと下りて来ましたが、今日はミッショーネ州を、南東に向かって横断、ウルグアイ川を渡ってブラジルの一番南の州、Rio Grande do Sul 州へと向かいます。途中幾つかの小さな、遺跡を観ながら行きたいと思います。

アルゼンチンでは、15の教化部落を造りましたが、サン・イグナシオ以外観ごたえのある遺跡は、ちょっと少ないと思います。最初にサン・カルロスへ参ります。殆どの遺跡は小高い丘的な所がありますが此処サン・カルロスは低地です。

こんな低地部落が有ったんですね。遺跡は少なくとも、サン・イグナシオやトリニダ程度の石造建築物がないと、気乗りしません。ちょっと眺め、写真撮影で終わりです。ウルグアイ川の手前に、SANTO TOME と云う国境の街がありますが、此処の遺跡も折角ですが、先ほどのサン・カルロスと代わり映えしません。それで、サント・トメはパスです。出国手続きをして、フェリーでウルグアイ川を渡り、ブラジル最南端の州 RIO GRANDE DO SUL に入って、入国手続きを済ませ、昼食をする事にしました。

今までで、まあまあ遺跡らしくてよかったのは、パラグアイ、アルゼンチンにそれぞれ一箇所だけでした。パラグアイの TRINIDAD、アルゼンチンが SAN IGNACIO MINI は、結構見応えあったけれど、他の遺跡は、「いまいち」でした。これから行くブラジルにも一箇所だけ、見応えある遺跡があります。ブラジル側へと渡る事にしました。ブラジル側の国境の町は SÃO BORJA です。此処にもちょっとしたものがありますが、その前に昼食です。

ブラジル名物のシュラスコを食べる事にしました。此処はガウーショ式です。大きな肉の塊を串刺しにして、かまどで焼いています。最初にブッフェから野菜類を各人が取り、肉を持ってくるのを待ちます。ウェーターが肉を持ってきます。皿へ適当に切って貰い、ビールでカンパイしながら食べ、話がはずみます。

今日は今のところ、仕事らしい仕事はしておらず、今まで移動のみです。食後 50 Km 余りを走りまして、サン・ミゲウの遺跡に到着です。

此処は教会が比較的よく保存されておりますが、それ以外はちょっとお粗末な感じです。教会は重厚ですが、奥の方の保存が良くありません。TRINIDAD は前方がない、SAN MIGUEL は前方のみ。この二つを合せば、見ごたえある教会の遺跡になりそうです。ただ他の二つの教会と造りの違いがあります。

この SAN MIGUEL の教会は、入り口の壁が二重になっており、1 m 程の中の通路、階段があるので壁の中に入る事が出来ます。カメラマンと雑誌社の方が撮影をしている間、私と立花氏は二人で、遺跡向かい側の休息所のカウンターで、コーラをのみながら無駄話をしていますと、二人のブラジル人の女の子達（17,8 歳程かな？）が入ってきて、アイスクリームを舐め始めました。其れを立花氏が見て指差しながら「齋藤さん、あの子達のアイスクリームの舐めかた、ちょっとエロチックだと思わない？」と言います。

そこで私「そうですねえ、ちょっとフェイラチョっぽい感じですね！？」と返事して、二人で大笑いしました。「日本の知の巨人」と雖(いえど)も、人の子ですね。その後、サント・アンジェロ、翌日はサン・ニコラスを見て昨日渡

った、ウルグアイ川をもっと上流から渡り、サン・ザヴィエルの遺跡をちょっとまで、POSADAS へと行き一泊、翌朝、ブラジル向け出発しました。

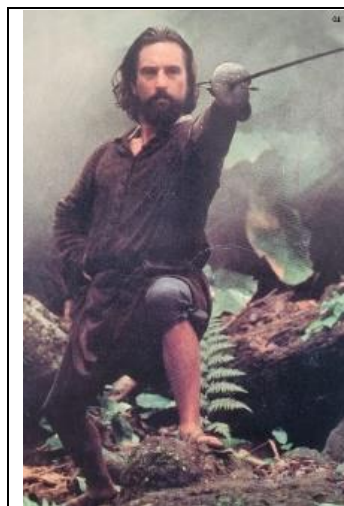
そして約300Km、ブラジルへと入る手前で、アルゼンチンからのイグアスー滝観光へ。夜は、ブラジル側のホテルで、簡素なお別れパーティーでした。

「立花さん。貴方は若い時分、アラブを旅行して、トルコの遺跡には凄い物がある、と言った事を何かで読んだ事があるんですが、今回の遺跡訪問は、ちょっと物足らずだったのでは？」と言いますと、「いやこれは、観光旅行ではなく、取材旅行ですから、物足りないと言う事はありません。其れよりも、資料少ないこれらの遺跡とイエズス会の事を書くのに、頭が痛い」とおっしゃいます。そのとおりですね。今回は私も観光旅行のガイドをしていたわけではなくコーディネーターでした。

この立花隆一行の後に、今度は「限りなく透明にちかいブルー」で芥川賞を取った村上龍氏一行が来ました。彼は釣り好きで遺跡の方はちょっぴり、「パラナ川の虎」ドラードの釣りに夢中でした。

8期生で牧師の丸谷さん、コロナ禍が落ち着いたら、イエズス会ミッションの遺跡訪問は如何でしょう？

写真10枚を掲載いたします。左下は映画でのロバート・デ・ニーロです。



映画ミッション



教会横のフィゲラ木が取り込んだので、中に石柱があります。



サン・コスメイ・ダミニョン神学校跡。



- 1.San Ignacio
- 2.Santa Rosa
- 3.Santiago
- 4.San Cosme
- 5.Santa Maria
- 6.Jesus
- 7.Trinidad
- 8.Corpus
- 9.San Ignacio Mini

BRASIL Foz do Iguaçu
3 国の国境のブラジル側が
フォス・ド・イグアスー市

ARGENTINA

- 10.Loreto
- 11.Santa Ana
- 12.Santa Maria
- 13.Concepción
- 14.San Luís
- 15.San Lorenzo
- 16.San Miguel
- 17.San Juan

BRASIL

サン・イグナシオ・ミニ遺跡で立花氏と。 ミッション遺跡の簡略地図看板

左：サン・ミゲウ
遺跡の教会前の私

右：トリニダ遺跡
後方は教会の遺跡
です。



サンタ・ローザ博物館の聖人刻像 3 体



【編集委員メールアドレス、ご連絡用電話番号】

そ が よしなり

曾我義成

ysoga@rimobloco.com.br

事務所(Escritório) 11-4057-2377

携帯(Tel. Celular) 11-97120-0863

ぼんこはらくにひこ

盆子原国彦

kbonkohara@live.jp

お さ だたかとし

長田譽歳

takatoshi.osada@gmail.com 自宅(Residência) 11-5563-6929

こ や まのぼる

小山 徳

tokukoyamano@gmail.com

し か たすすむ

志方 進

ssshikata@gmail.com

自宅(Residência) 15-3279-1521

皆様ふるってご投稿ください。

ご投稿を受信しましたら、着信通知を発信しておりますが、もし、通知がない場合は、ご投稿の到着を確認してください。

ご意見、ご提案、お叱りなどもお寄せください。

【名簿訂正】住所や電話番号などを変更された場合は会長または編集委員へお知らせくださるようお願いいたします。

【お願い、お知らせ】

次号は12月上旬に発行予定です。

ご投稿は11月21日(日)までにお願い致します。

【編集後記】

今号へも多くのご投稿をありがとうございました。

慰霊祭の写真は渡辺進さん、曾我義成さん、長田譽歳さんの提供でした。

相変わらずのコロナ禍ですが、皆様どうぞお元気でお過ごしください。

